

地震速報 (20:40) 【震度4】新島

[ニュース](#) > [地域](#) > [大分](#) > [ニュース](#)

繁華街店に「予防徹底を」 別府市が支援事業周知 都町では消毒液配る

2020/12/18 05:00



消毒液を受け取る長尾さん（右）

新型コロナウイルスの感染が短期間で広がる中、別府、大分市の繁華街で17日、市職員や飲食店の組合員が感染防止の徹底を呼びかけた。本来ならかき入れ時だった年末。別府市では新たに創設した支援金事業を周知するチラシ約400枚を用意し、大分市都町では各店舗に消毒液を配った。

別府市では感染者の増加を受け、自主的に休業するスナックやバーなどに、1店舗当たり28万円を支給する事業を始めた。来年1月3日までに連続14日間以上休業することが条件となるため、21日には休業する必要がある。

この日は市や別府商工会議所、別府料飲協同組合から約20人が参加。JR別府駅から班に分かれて繁華街を歩き、店舗の入り口に事業を説明するチラシを差し込んだ。店主らがいた場合は口頭で説明した。

18日も活動する予定。市産業政策課の奥茂夫課長は「多くの店に事業を知ってもらい、活用してほしい」と話していた。

県内最大の繁華街・大分市都町では、県社交飲食業生活衛生同業組合の組合員がスナックやバーを訪れ、県が作成した感染対策の手引きを配布した。

クラブ三清の長尾淳子さんは「お客様が一番入る12月なのにほぼ赤字。3、4月に続き厳しい。安心して来店できるよう、もう一度気を引き締めたい」と語った。年末にかけて県食品衛生協会の組合員も飲食店を訪れ、県内1700店舗以上に対策の徹底を促す。

無断転載・複製を禁じます

地域

PR 医師・歯科医師・薬剤師の皆さまに届出のお願い～政府広報

PR かげの時は、お家で休もう！ <シオノギヘルスケア>

広告